

曾我蕭白「風仙図屏風」18世紀後半 紙本墨画 155.8×364.0cm
ポストン美術館蔵

曾我蕭白

そが・しょうはく 1730年(享保15)生まれ。81年(天明元)没。江戸時代中期の京都画壇において、応挙、若冲とともに活躍した個性派画家。

Information

ポストン美術館 日本美術の至宝展(開催中)~6/10・東京国立博物館、6/23~12/9・名古屋ポストン美術館、13年1/1~3/17・九州国立博物館、4/2~6/16・大阪市立美術館)

画面の左上方からぐるりと黒雲が渦をまき、風と水とを伴いながら、画面右へとスピード感のある動きを生み出している。一説によると、漆黒の雲は、龍の置き換えであるとされている。自然の巨大なエネルギーと、それに対抗する人間の姿を、戯画調に捉えた蕭白30歳代の作である。

白髪一雄

しらが・かずお 1924年(大正13)生まれ。2008年(平成20)没。吉原治良に師事し具体美術展に参加した、具体美術協会の代表的作家。

蕭白が自然のエネルギーの造形化ならば、白髪の渦は引力と重力の造形化といえるだろうか。天井から吊した綱にぶらさがって足で描いた軌跡が、手技では生み出せない偶然性を伴って、エネルギッシュな画面として結実している。

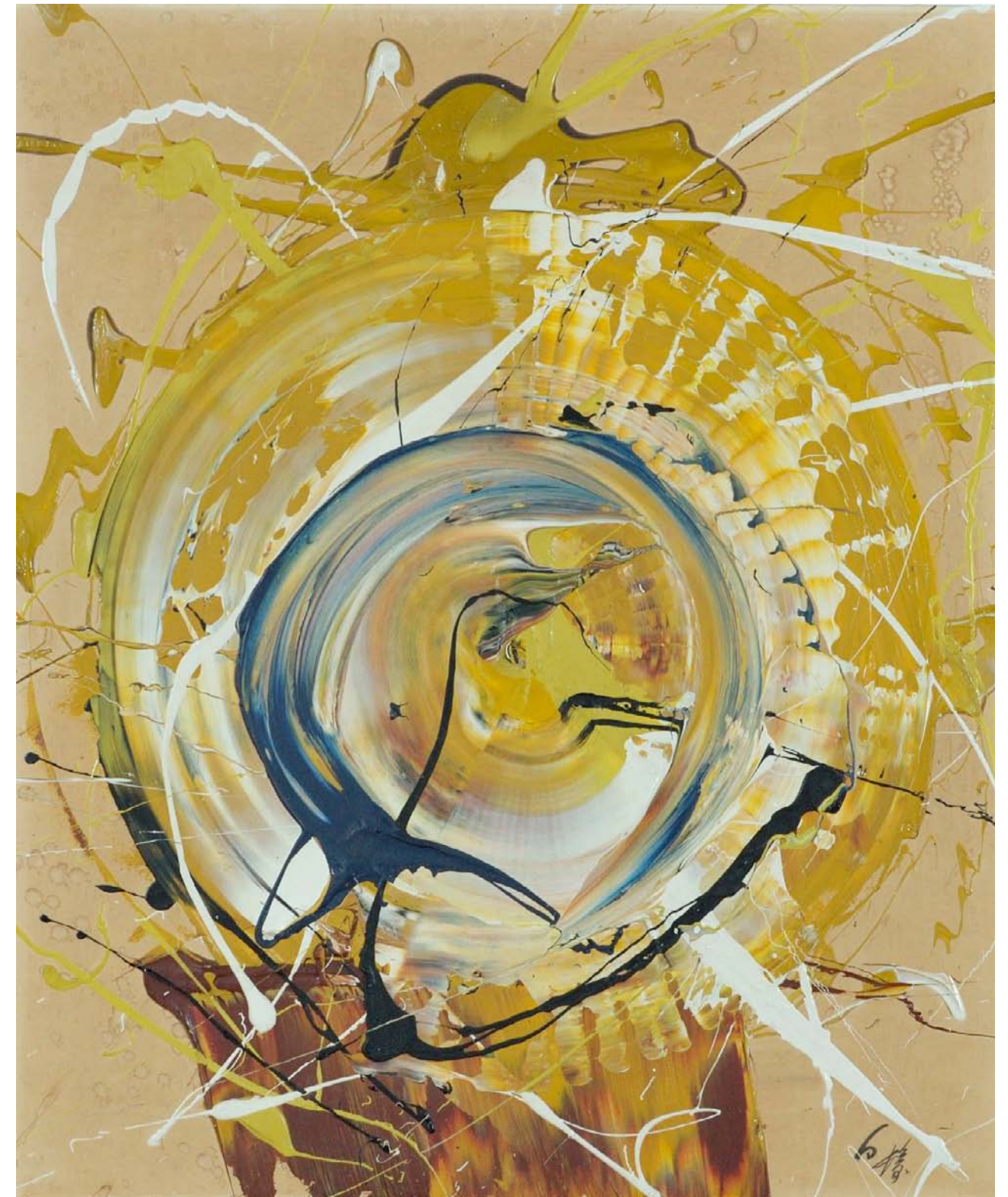
取り扱い画廊 椿近代画廊
購入の目安 要問い合わせ

現代美術

古美術

白髪一雄 VS 曾我蕭白

力強い渦巻きはどっち!?



白髪一雄「転法輪」1974年 油彩、紙 72.7×60.6cm